

秋田藩20万石の城下町として、面影を残す秋田市。JR秋田駅の北西には、城址の千秋公園が広がり、市民の憩いの場となっています。

その公園のすぐ近くにお店を構えるのが、秋田銀線細工の老舗、竹谷本店。「天保元年（1830）創業は確かですが、明治時代に大火に遭い、残念ながら記録はあまり残っていない」と、取締役の竹谷康子さん。

秋田は古代から金銀の産出が豊かで、慶長7年（1602）、初代藩主佐竹義宣公が常陸国から国替えになった際、金銀細工師を連れてきたのが秋田金銀細工の始まりと言われています。竹谷さんの店は、明治末期頃から優秀な細工師を数多く輩出し、時代に合った金銀細工をつくってきました。

その中で、秋田独特の伝統工芸として発達してきた銀線細工。もともとは、江戸開府以前にオランダから長崎の平戸を通じて伝来したとされます。「実際はポルトガルから来たと言われています」と竹谷さん。今も類似した工芸があるのがポルトガルで、各地に伝わったものが、たまに秋田が盛んになって残ったのだろうと推察されます。

興味深いのは、伝来地とされる「平戸」が、銀線細工の専門用語として残っていること。銀線を縫って丸めてつくる小さなパーツのことを「ヒラト」と言うのです。

竹谷本店ではかつて、武家の婦女子の髪飾りや花嫁かんざしなどがつくられ、昭和初期には帝国美術院展覧会で入選を果たし、全国にもその名が知られるようになりました。戦後は、ブローチやペンダントなど、洋風のアクセサリや額飾りなどもつくられるようになりました。

作業場では女性職人3人が、黙々と手を動かしていました。ガスバーナーで熱したり、ピンセットで組み合わせたり。見渡すと、いろいろな形のハンマーやピンセットをはじめ使い込まれた道具が、そこに置かれています。

工程はまず、直径0.2〜0.3ミリの細い銀線を2〜3本巻き合わせて平たくつぶしたものを、くるくると丸めるヒラトづくりから。これを、少し太めの銀線で作った葉っぱや花びらなどの枠にはめ込んで、各部分を銀ロウ付けし、さらに寄せ合わせてロウ付けしていきます。この後、形ができあがったら、火にかけた葉



秋田蕨（ふき）をデザインした包装紙のロゴ。銀線細工製品にも、秋田蕨のデザインは多彩に生かされています。

◎ちよつといいモノ語り／竹谷本店「秋田市」

キラリやさしく輝く

銀線が映し出す

鮮やかな手技と感性

長崎・平戸に伝来、その後秋田の伝統工芸として根付き、以来長い時を経て全国的に知られるようになった銀線細工。気が遠くなるほど緻密で繊細な銀の美術は、女性職人たちの熱い思いや夢が吹き込まれ、また新たに注目を集めています。



太目の銀線でかたどった葉っぱの枠に、ヒラトを一つ一つはめ込みます。はめ込んだ後、中できっちりと動かないようにするのに何年もかかるそう。



花びらが2段になっている豪華なガーベラのティアラ。清楚な中にも華やかさがあります。ティアラはオーダーで受け付けています。
◎「ガーベラ」ティアラ 126,000円



まるで今にも舞い飛びそうな蝶々、横向きアゲハ。トンボなど昆虫をかたどったアクセサリも人気があります。
◎「横向きアゲハ」ブローチ 19,950円



上は、これからヒラトを入れる葉っぱの枠。自分で直鋸板を切って工夫して型をつくります。

左下は、パーツに塗った銀ロウをバーナーで熱して接着させる渡辺圭子さん。右上は銀ロウをハケで塗る作業をする松橋とし子さん。右下はヒラトを枠にはめ込む小林美穂さん。銀線細工は、使用後乾いた状態でナイロン袋などに入れておくと、銀の酸化を遅らせることができる。どうしても黒ずみが落ちない場合は、「仕直し」も受け付けているそうです。



指先でくるくると巻くヒラトが、銀線細工の一番の基本。これが奥深く、何年経っても完璧なものではないとのこと。



伝統的につくられてきた菊のデザイン。プレスレットは三連の菊に、チェーン部分も三連に仕上げたモダンな印象に。
◎「丸に小菊」ペンダント 5,460円、プレスレット 14,700円



花びら部分に小さなヒラトがきっちり埋め込まれた梅の花のペンダント。古風なデザインながら、キュート。
◎「梅里」ペンダント 8,400円



手の込んだ二重の花びら、その隅の跳ね上がりも愛らしいジャスミン。カジュアルにもフォーマルにもぴったり。
◎「ジャスミン」イヤリング 12,600円



小さな波形は歯車で形をとったという、細密なつくり。まるでレースのような繊細さが魅力です。
◎「角」ペンダント(大) 14,700円、(中) 11,550円、(小) 9,240円



左から松橋さん、竹谷さん、渡辺さん、小林さん。



株式会社竹谷本店
秋田県秋田市中通 2-4-3
TEL018-835-1331
<http://www14.ocn.ne.jp/~takeya/11.html>
※表示価格はすべて税込です。



銀製の耳かきは、持ち手が平たいので使いやすいバツグン。カラフルな布を使ったケース入りは、プレゼントにも。
◎耳かき(ケース入り) 3,045円



裁縫仕事が増えるような銀の指ぬき。上は総穴で、下は半分細くなっています。
◎指ぬき(総穴) 4,410円、フリー 3,990円



よく目を凝らすと、月の輪の中に花びらがたくさん咲いています。
◎「月の輪」ペンダント(大) 15,750円、ピアス 14,700円



ヒラトを組み合わせた1cmほどの球体は、コロんとした丸くてかわいいデザイン。
◎「ほうずき」ペンダント 8,400円



耳元で揺れるピアスは、シンプルなのに細密な技が光ります。ポストとキャッチには18金を使用。
◎「一重」ピアス 10,500円

かつては男性職人が多かった銀線細工の世界ですが、竹谷本店では女性パワーが圧倒。伝統を大切に紡ぎながら、女性らしい感性で生み出す銀線細工は、これからますます輝き続けることでしょう。

かつては男性職人が多かった銀線細工の世界ですが、竹谷本店では女性パワーが圧倒。伝統を大切に紡ぎながら、女性らしい感性で生み出す銀線細工は、これからますます輝き続けることでしょう。

かつては男性職人が多かった銀線細工の世界ですが、竹谷本店では女性パワーが圧倒。伝統を大切に紡ぎながら、女性らしい感性で生み出す銀線細工は、これからますます輝き続けることでしょう。

かつては男性職人が多かった銀線細工の世界ですが、竹谷本店では女性パワーが圧倒。伝統を大切に紡ぎながら、女性らしい感性で生み出す銀線細工は、これからますます輝き続けることでしょう。

かつては男性職人が多かった銀線細工の世界ですが、竹谷本店では女性パワーが圧倒。伝統を大切に紡ぎながら、女性らしい感性で生み出す銀線細工は、これからますます輝き続けることでしょう。

かつては男性職人が多かった銀線細工の世界ですが、竹谷本店では女性パワーが圧倒。伝統を大切に紡ぎながら、女性らしい感性で生み出す銀線細工は、これからますます輝き続けることでしょう。

かつては男性職人が多かった銀線細工の世界ですが、竹谷本店では女性パワーが圧倒。伝統を大切に紡ぎながら、女性らしい感性で生み出す銀線細工は、これからますます輝き続けることでしょう。

かつては男性職人が多かった銀線細工の世界ですが、竹谷本店では女性パワーが圧倒。伝統を大切に紡ぎながら、女性らしい感性で生み出す銀線細工は、これからますます輝き続けることでしょう。